

雜錄

●本會玩具研究部 從來本會内に設けられたる同部は都合に因り舊冬限り中止することゝせり。爾今同部に關することは一切同部員たりし會員高市次郎和田實の兩氏に於て處理することゝせり。

尤も同部に於て從來行ひ來れる模範玩具配布は會員希望に因りフレール館に於て依然繼續して之を引受くる由

●本會常會 本月開會の筈なる本會常會は小石川區竹早町なる東京府女子師範學校附屬幼稚園に於て開催することゝせり。當日は東京女子高等師範學校教授文學士小林照朗氏の「社會と兒童」と題する講演ある筈なり。知友御誘ひ合され大に御來會を望む。

●日本玩具研究會 玩具研究に熱心なる本會々員高市次郎氏は文學士倉橋惣三、同河野清麿兩氏の賛助を得て標題の如き獨立したる大研究會を興さんとて目下計畫中なり。之に就いては朝野多數の名士の有力なる援助尠ならず、且専門家の入會

を希望するもの多ければ成立の上は教育上並に貿易上に貢獻すること大なるものあらん。

新刊紹介

●眞澄の鏡井上通女

讃州丸龜の人井上通女の傳記にして女子の好讀物なり。女史は學和漢に通じ詩歌を能くし兼ねて書畫に巧みなり。而も家事裁縫等の女工に掛けては決して人後に落つることなく行ひ澄せり。此書編を分つこと、先づ處女としての通女を明にし、夫より待女としての通女妻としての通女、老母としての通女を叙し、更に其學殖に就いて論じたるものにして能く通女の眞價を發揮せり。此書を読むもの、誰か通女の才氣と學殖と其精勤とに驚かざるものあらん。敢へて讀者の一讀を勸む。但し微瑕とも云ふ可きは著者が餘りに通女を崇拜したる跡の折々章句の間にはの見ゆることにして、讀者の時に或は反感を起すことなきかを恐る。(東京市神田區表神保町一、同文館發行、定價金九十錢)